

## 文部省から「小学算術書珠算教師用」が発行される

明治40年（1907）になって、文部省から「高等小学校算術書 珠算教師用」が発行されました。翌年に学制が変更になって、それまでの尋常小学4年（義務制）高等小学2～4年制が、尋常小学6年（義務制）高等小学2～3年制となり、このため珠算書の教師用も「尋常小学算術書 珠算 教師用」と改められました。この書の発行によって、小学5年から珠算を教える場合にはこの教科書によって指導され、珠算の教授内容は全国的に統一されました。なお児童用の教科書はなく、またかけ算は尾乘法、わり算は帰除法によって指導されました。

## 二指法が多くなってきた

明治時代の初期は一般に一指法が多く、中頃以降になると、初心者は一指法で、そして次第に慣れてきたら二指法に変えるという考え方も出てきました。そして明治の終わり頃から大正時代にかけて、初めから二指法で指導するようになり現在にいたっています。

## 高等小学校で珠算を学ぶことになった

大正15年（1926）に、

「算術ハ筆算ヲ用フベシ。尋常小学校ニ在リテハ土地ノ情況ニ依リ珠算ヲ併セ用フルコトヲ得。高等小学校ニ在リテハ珠算ヲ課スベシ。」

という文部省令がでて、高等小学校では珠算が必修となりました。